

## 2018年第2回サポーターミーティング 要旨

■日時：8月18日(土) 10:30～12:00

■会場：長野Uスタジアム 記者会見場

### 【トップチーム】

「皆さんより一番ご心配をいただき、ご意見が多かった項目です。この成績に満足しているわけではないですし、なんとか打開したいと思い動いていることはご理解いただきたいです。その中で、今シーズンについては、昨年の成績が過去最低だったということを加味した中で、当時の浅野監督と色々な話をして今季をどうするか話し合いました。その中で、監督のリクエストに応じた選手補強・編成をしてスタートしました。今回のポイントは昨年の結果を考慮し、得点力アップと若返りをポイントに、FWで得点力のある選手、大学卒で今後が期待できる選手を含んで補強しました。

浅野監督解任についてもご意見をいただき、具体的な経緯についての質問もありました。スタートダッシュで思うようにいかなかったことと試合内容について、浅野監督ともディスカッションしながら監督の意向・選手とのコミュニケーションなどをいろいろな形で改善する努力をしてきましたが、何度かの話を経て最終的に両者での合意のうえ退任という経緯になりました。監督交代により、とにかく今シーズンの残り試合を良い成績に持っていこうというのが一番の理由で、これ以上の理由はございません。浅野監督はサポーターの皆様にも非常に支持され、大切にさせていただいた監督というのは重々承知している中でクラブとして判断をさせていただきました。

現状、阪倉監督に移行して動いていますが、まだまだ我々にとっては結果がしっかり見えていない状況にはありますが、この中断期間で考えておられる部分をしっかり出していただきたいと思っています。また、戦力補強についてです。現場のリクエストに合わせて何人かの選手にオファーを出させていただきましたが、契約に至りませんでしたので、今ウィンドウでの補強はございません。ケガ人も何人か帰ってきますし、現有戦力でなんとか阪倉監督にお任せしたいと思っています。

現状では大変厳しい状況ではありますが、我々は決して昇格を諦めていません。サポーターの皆さんにも引き続き応援を頂きたく存じます。

それから、キャンプについてのご質問もいただきました。なぜ成果が出ないキャンプをやるのか、ケガ人が多いキャンプをするのか、という内容でしたが、まず降雪寒冷地のクラブにとって1月2月のグラウンドの確保は大きな問題です。雪が降る降らないという問題もありますが、新シーズンに伴い新しい選手たちも入りスタートを切るうえでしっかりした練

習環境を確保するというのが重要です。できるだけ近場で費用がかからない場所でやりたいのですが、グラウンドや宿泊施設の確保、練習試合を組む等の理由で、現在は佐賀と和歌山へ行っています」

#### 【レディースチーム】

「昨年途中より横山選手が移籍をし、今季は若い選手中心の補強でスタートしました。開幕当初は皆さんご覧いただいても少し迫力に欠けたりした部分もあったと思いますが、それも徐々に改善し纏まりもできていると思っています。カップ戦については残念ながら決勝進出はできませんでしたが、9/8 に始まる後半戦からは横山選手が復帰をいたします。横山選手不在の間に、若い選手もだいぶ伸びておりますので、うまく連携していければ期待できると思っています」

#### 【アカデミー】

「それぞれのカテゴリーで進歩していると思いますが、課題としては指導者の固定化、選手の上位カテゴリーへの引き上げだと思っています。やはりトップチームに選手を送り出すことをしたいと思っていますし、地元の中で少しでもリーダーシップを執っていきたいと思っています」

#### 【運営面】

「試合運営については、毎試合フィードバックされるマッチコミッショナー報告書を読むとトップ、レディース共により報告をいただいております。マッチコミッショナーからはJ2でも十分運営できるということで太鼓判を押されておりますので、競技運営ということについてはしっかりできていると思っています。ただ、これはボランティアや外部の皆様を含めた中での評価だと思っていますから、改めて感謝を申し上げたいと思います。

危機管理について、大災害、小さな事故などがありますが、マニュアルを作った中で対応を致しております。ですが、今季も若干連絡のところで不備があって皆さんにご協力をいただいていた対応をしたということがありました。こちらも早急に運営サイドで反省をし、今後の再発防止に向けてまとめさせていただきました。避難誘導についてもマニュアルを基に実施したいと思っています。クラブスタッフは消防署が実施している講習を受講しておりますし、医師・看護師の方も試合時には常駐しておりますから、ケガ人の早期措置についても今まで通りしっかりとやっていきたいと思っています。

集客についてですが、観客数の減少を心配しておられるかと思います。クラブとしても死活

問題で、入場料収入が減少してしまうというのは十分理解しております。皆さんへただ『来てください』というのを言うだけでなく、スタジアムで楽しい思いをしていただき、また来たいと思っていただけるようにすべく、いろいろなイベントを組んでいるつもりではございます。ただ、その内容が本当に良いものなのか、スタジアムグルメを含めて変化をつけていかなければならないと思っております。

駐車場・シャトルバスについてです。篠ノ井西口駐車場についての利用状況についてのご質問がありましたが、満車の日もあるという状況です。シャトルバスについて、利用は増えていますが、バスの借り上げ状況などを考えますと現状は赤字運営となっております。バスの運賃変更については国交省の路線価格なので、現状変更ができない形となっております。また、長野駅からのシャトルバスについてのご意見ですが、前にもご説明いたしましたが、通常のバス営業ルートがあるところについては動かせるのですが、それ以外の路線については貸し切りバス扱いになってしまいます。そういう意味ではなかなか難しいところがあるのが事実です。また、往復の時間がかかってしまう都合上、1～2本で運用すると皆さんに60分、120分待っていただけるのかという問題がございます。ですが、中心街からどうやって皆さんに来ていただくかというのは引き続き検討を重ねて参りたいと存じます。付随して、100台近くある駐車場からのシャトルバスについてのご意見につきましても、同時に多くの方がいらっしゃればいいのですが、数名の方のみをお乗せしてまた次の方は長時間お待たせするというわけにもいきませんので、なかなか現実的ではないという状況です」

#### 【普及・ホームタウン活動】

「まず、アイスホッケー・バドミントンとの関わりについて、活動理念に賛同していただき、別組織ではございますが、同じベクトルを向きたいというご意思があった2つの組織と提携しております。お互いにパルセイロのエンブレムを背負って活動している組織ですから、連携についてはいろいろと考えています。少しでも地域の皆さんに浸透し、愛されるクラブを目指しながら切磋琢磨して成長していきたいと思っております。

また、ホームタウン活動においてなかなか活発化していない部分もありましたが、今年は多く選手を派遣したり、サッカースクールを実施したりするなど、数を増やせています。

東信地区への展開につきまして、佐久地区は非常にパルセイロとしては足が離れているというご意見もございます。我々もイベントなどを行うなど、何もしていないというわけではございませんが、アルティスタさんがホームゲームをやっているということで目立ってしまったというのが現状でございます。あくまでも佐久市は我々のホームタウンですの

で、しっかり話し合いながら協力できることはして活動を広めていきたいと思っています。また、上田地区にもスクールを開校すべく準備を進めておりますし、東信地区への仕掛けもしていきたいと思っています」

#### 【2020 vision について】

「女子サッカーの普及に関する『2020 vision』の4本柱についての現状について、1つ目の米国大学留学キャンプについては昨年、今年と2回実施しており、弊クラブが全面的に協力をさせて頂きました。昨年アメリカからオファーがかかった選手が12名おりました、この9月から何人か留学にすることになっております。ただ、この選手たちがすぐパルセイロに戻ってくるかといえばそうではありません。その子たちが女子サッカー本場のアメリカで海外経験を積んでその中でいい選手がいれば、当然声をかけていきたいと思っています。

また、アメリカの女子チームとの提携ですが、こちらはサンディエゴ・ゼストという男子4部チームがロサンゼルスギャラクシーというメジャーリーグのチームと提携したことによってサンディエゴに“ゼスト”というギャラクシー系の女子チームを2つつくれないということで、ゼストから“パルセイロ”を名乗りたいというお話がありまして、検討した結果、現在サンディエゴ・パルセイロというチームがアメリカの2部で活動しております。当然、留学した選手が入っていきますので、これからパルセイロの名前で日本の選手がアメリカでプレーしていくことになると思います。

そして、アジアとの交流ですが、ベトナムとの話が少しずつ進んでおります。ベトナムからパルセイロレディースを招待したいという話もいただいているのですが、日程その他の問題もありなかなか実現できておりませんが、ベトナムと日本の女子サッカーの架け橋になってもらいたいという要請なので、検討を続けていきたいと思っています。

最後に女子サッカーの普及に寄与するということですが、高校も含めて女子サッカーのチームも増えてきましたので、そこの協力体制も考えて行っております。今年から国体チームへの全面的なバックアップをして、長期的なビジョンで支えていきたいと思っています」